

第221回 プロジェクト「教授システム学 (Instructional Systems) の研究普及拠点の形成」の紹介

- 正式な事業名は・・・
「教授システム学 (Instructional Systems) の研究普及拠点の形成ー学び直しを支援する社会人教育専門家養成[短期プログラム]パッケージの開発と普及ー」
(平成26年度 特別経費(プロジェクト分【新規事業】) 大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実 採択プロジェクト)
- 【概要】eラーニング専門家養成のための eラーニングによる大学院である教授システム学での教育研究実績に基づいて、社会人が学びやすい環境を整備する専門家を育成するため、履修証明制度 (Certificate) を活用する短期プログラムを開発し、ICT活用により横展開(全国大学院)から縦展開(学部教育への応用)へと繋げて行く。⇒もう少し具体的に説明すると・・・
- 全体計画・・・調査/企画・開発・試行/展開 の3ヶ年計画
- プロジェクト推進体制・・・平成27年1月から新体制になりました。
- 平成26年度の事業進捗 (調査)
履修証明制度・諸外国の動き (英・蘭)・国内の動き・システム開発
- 今後の展開・・・平成27年度に向けて 米国は只今調査中です

プロジェクト概要

- 【目標①】社会人が学びやすい環境を整備する(=eラーニングを含めた社会人向け学習環境の整備ができる)専門家*を育成する.
- 【目標②】目標①を実現するため,熊本大学 教授システム学専攻での教育研究実績に基づいて短期養成プログラムを開発する.
- 【目標③】養成プログラムを,ICT活用により全国大学院に展開する.
- 【目標④】同プログラムを「学部教育への応用」へと繋げる.
- 【目標⑤】これらの取組を通して,教授システム学の研究普及拠点を形成する.

「専門家*」=「大学教員」>「若手教員」>「新任教員」



「新任教員」のための養成(プレFD)プログラムを開発します.

全体計画

【1年目】

本専攻を研究普及拠点とし、社会人の学びやすい環境を構築するための専門家に求められる資質を洗い出す。→ 調査を中心に

【2年目】

社会人の学び直しに適切な短期集中型で遠隔学習が可能な形式を採用して洗い出した専門性を身に付けるための研修講座を企画・立案し、試行・改善する。→ パッケージの設計・開発・試行を

【3年目】

全国の協力機関において研修講座を展開すると同時に研修担当者の養成・認証制度も試行する。→ パッケージの展開・実践を



プロジェクト実践体制

- 平成26年4月発足→平成26年10月，平岡先生がプロジェクト専任からGSIS専任に。
- 平成27年1月から，中嶋が新たに加りました。

All GSIS



平成26年度の実績(調査)

1. 諸外国で開発・実践されているHPI (Human Performance Improvement)等の, 社会人に対して効果的, 効率的, 魅力的に教育を実施できる教育設計手法の調査と適用
→ 社会人の学びやすい環境を構築するための専門家に求められる資質についての調査を行う.
2. モバイル, クラウド等の新しいICT環境の利点を活かした社会人向け学習支援システムや履修証明制度向けeポートフォリオ等の設計と開発
→ 社会人向け学習支援システムに求められる特性をICT環境の観点から整理し, プロトタイプへの実装を行う.
3. 大学・大学院における履修認定制度や短期プログラムの実践例調査実施, および国内諸大学・大学院の実情を考慮した教育プログラムパッケージ普及促進方策の立案
→ 履修認定制度や短期プログラムの実践例の調査を実施する.



履修証明制度

- 【対象者】 社会人(当該大学の学生等の履修を排除するものではない)
- 【内 容】 大学等の教育・研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された、体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラム
- 【期 間】 目的・内容に応じ、総時間数120時間以上で各大学等において設定
- 【証明書】 プログラムの修了者には、各大学等により、学校教育法の規定に基づくプログラムであること及びその名称等を示した履修証明書を交付
- 【質保証】 プログラムの内容等を公表するとともに、各大学等においてその質を保証するための仕組みを確保

(第214回 ランチオンセミナー「大学等の履修証明制度について」より転載)



「履修証明書」が、プレFDのCertificateとなる。
そして、諸外国では、このCertificateが大きな価値を持つ。



諸外国のプレFD(蘭:BKO)

- BKO(英語では, UTQ: University Teaching Qualification) : オランダでの教員の基礎的能力の判断基準. 2010年より15の公立大学の新任教員は就職, 昇進, テニュアトラック獲得の前に修了することが要求されている.
- IDとデリバリの両方が必須事項. 全体で200時間程度.

(第215回 ランチオンセミナー「ID教育の観点からの日本のプレFDの課題と改善策」より転載)

表.
基準の特性
(R. de Jongら
, 2013を和訳し
た)

| | |
|---|--|
| Characteristics of content コンテンツの特性 | <ul style="list-style-type: none"> ① 認定の基準は, 知識と見識の観点ではなくむしろ行動(能力)の観点である ② 満たすべき要件は, 学術指導の国際基準(Dublin descriptors)に対応している ③ 満たすべき要件は, ティーチングパフォーマンス, コースやプログラムの設計, 評価, プログラム評価, 学生のカウンセリングやコーチング, 組織の要求, に注意を払うことを含む専門的実践により設定される. (=スタッフは, 内容, 教授法, プログラムの構成に関して目標・目的が達成されているかを保証する十分な資格がある) ④ 教員は自らの研究テーマ/領域の発展に貢献する研究者である |
| Characteristics of assessment 評価の特性 | <ul style="list-style-type: none"> ① 学術教員のパフォーマンスのすべての側面が評価に含まれる ② 具体的な基準が明示され, 事前に知られている ③ 学術教育に必要な経験の程度が確立されている ④ 各自の教育実習のリフレクションが評価の本質的部分である ⑤ 評価手順は機密性, 信頼性と適合性を保証するために定式化される ⑥ 評価委員会のメンバーの専門性が確立されている |
| Characteristics of process 手順の特性 | <ul style="list-style-type: none"> ① 大学教員のスタッフ開発プログラムの内容, 方法及び規模(例えばトレーニングモジュール, コーチング, ポートフォリオの開発)は, 大学教授資格のための規則に従った要件から導き出される ② スタッフ開発コースの中で, 教員は教育知識を実践する ③ 大学は, BKO(基礎教授資格)のレベルへ向けて大学教員のスタッフ開発を促進する |

参考文献: R. de Jong, J. Mulder, P. Deneer, H. van Keulen (2013). Poldering a teaching qualification system in Higher Education in the Netherlands, Revista de Docencia Universita. 11(3), 23-40.



諸外国のプレFD(英:PGCHE)

- PGCHE (Postgraduate Certificate in Higher Education) : プロフェッショナルとしての教員を育成する枠組みとして, 2006年から施行. 基準枠組み(The UKPSF: The UK Professional Standard Framework for teaching and learning in higher education)に基づいて設計し, 高等教育アカデミー(HEA)から認定を受けた教育プログラムを指す. 英国の殆どの大学が新任教員を対象に実施.

表.
基準枠組み
(加藤, 2008;
HEA, 2011)

| | |
|-----------------------------|--|
| Areas of activities 活動領域 | <ol style="list-style-type: none"> ① 学習活動の設計と計画およびスタディプログラムの設計・計画 ② 教授および(もしくは)学生の学習支援 ③ 成績評価, 学習者へのフィードバック ④ 効果的な学習環境, 学生支援, ガイダンスの開発 ⑤ スカラーシップ, 調査研究, および専門的活動と教育・学習支援の統合 ⑥ 実践評価, 継続的な専門職能開発 |
| Core knowledge コア知識 | <ol style="list-style-type: none"> ① 専門科目内容の知識理解 ② 科目領域や学問レベルでの適切な教授学習方法 ③ 学生がいかに学ぶか(一般的な学習理論と専門分野別で) ④ 適切な学習テクノロジーの利用 ⑤ 教育効果の評価方法 ⑥ 質の保証と専門職業人としての実践力向上の意味 |
| Professional values 価値観 | <ol style="list-style-type: none"> ① 個々の学習者と多様な学習コミュニティを尊重する ② 高等教育への参加を奨励し, 学習者の機会平等を促進する ③ エビデンス情報に基づいたアプローチや, 研究, スカラーシップ, そして専門職能開発の継続からのアウトカムズを活用する ④ 専門的実践の実施を認めることを高等教育が行おうとする, より広い文脈を認識する |

参考文献: 加藤かおり(2008)「英国における大学教員の専門職開発と教育開発」, 『大学評価研究』, 7, 73-82
The Higher Education Academy (2011). The UK Professional Standards Framework for teaching and supporting learning in higher education 2011.



国内のプレFD

- 名古屋大学「大学教員準備講座」
大学院生・PD対象, 3日間集中プログラム
- 東京大学「フューチャーファカルティプログラム」
大学院生対象, 修了すると「履修証」(=履歴書に書ける)が発行される.

その他,

- 北海道大学「大学院生のための大学教員養成講座」
- 東北大学「大学教員準備プログラム」
- 筑波大学「教育・研究指導Ⅲ(職業としての大学教育)」
- 京都大学「文学研究科プレFDプロジェクト」 etc

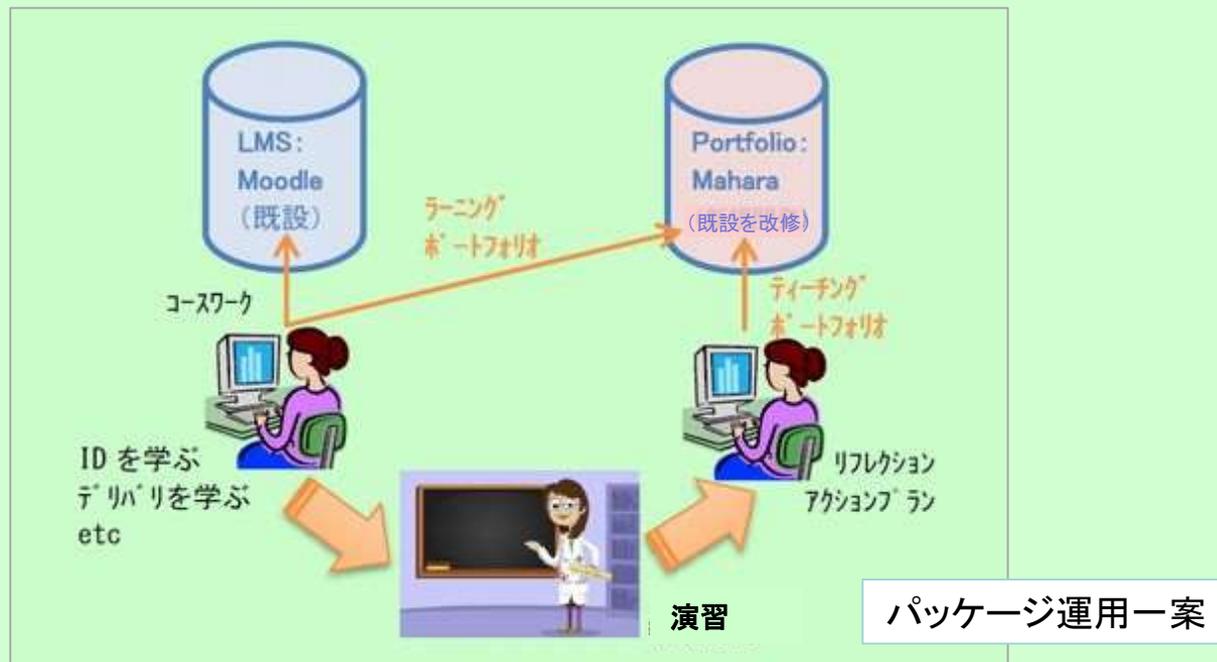
→ BKO(蘭)などと比較すると, IDに相当する講習内容・時間が少ない.
教員としての一般教養を得るためのプレFDとは別に, IDに特化したプログラムを開発して取り入れることが有効. (平岡ら, 2014)

参考文献: 平岡 齊士・小林 雄志・喜多 敏博・都竹 茂樹・鈴木 克明(2014.9.20)ID教育の観点からの日本のプレFDの課題と改善案. 日本教育工学会 第30回全国大会(岐阜大学)発表論文集,621-622



システム開発

- 熊本大学 教授システム学専攻での教育研究実績に基づいたシステム設計を行う。



今後の展開・・・平成27年度に向けて

【2年目】

社会人の学び直しに適切な短期集中型で遠隔学習が可能な形式を採用して洗い出した専門性を身に付けるための研修講座を企画・立案し，試行・改善する。

